

令和元年度
厚生労働省在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野
日時:令和元年11月29日(金) 9:00～16:30
場所:CIVI研修センター日本橋
主催:一般社団法人全国訪問看護事業協会
司会:全国訪問看護事業協会高砂 裕子常務理事

令和元年度訪問看護講師人材養成研修会プログラム

部		所要時間(分)		講義名	到達目標	講師 所属	概要
							内容
開会	9:00～9:05	5	開会			一般社団法人全国訪問看護事業協会 会長 尾崎 新平	開会の辞
講義	9:05～9:25	20	総論1	開会の辞・本研修の趣旨説明 地域包括ケアシステムと訪問看護	地域包括ケアシステムにおける訪問看護の現状を理解できる。	厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室室長	・本研修会の位置づけと役割 ・在宅医療・訪問看護の基礎的なデータ
	9:25～9:45	20	総論2	在宅医療・介護における行政と訪問看護の連携の実際	在宅医療・介護における行政の役割を知り、行政と訪問看護との連携の必要性を理解する。 地域における訪問看護の量的・質的確保に関する課題や解決策について行政と連携する必要性を理解できる。 地域における最新状況や情報の収集方法、窓口等を知ることができる。	神奈川県健康医療局保健医療部医療課課長代理 茂木 光代氏	・在宅医療・介護における行政の役割 ・地域における訪問看護の量的・質的確保に関する課題整理と解決について行政と訪問看護が連携する必要性・実際 ・在宅医療・介護のために地域で行っている会議の種類及び役割 ・地域における最新状況や情報の収集方法、窓口等 ・地域における訪問看護、在宅医療に係る事業(地域医療介護総合確保基金等) 上記について、自地域の課題をどのように把握して事業化したかについて、流れの中で具体的に説明する。
	9:45～10:15	30	総論3	訪問看護の対象者の理解	高齢者、小児、精神科など、訪問看護の対象について理解し、地域における研修会の企画に活用することができる	日本訪問看護財団常務理事 佐藤 美穂子氏	・地域包括ケアシステムにおける訪問看護の対象 ・医療的ケア児を含む小児の対象について ・精神科疾患のある訪問看護の対象について ・地域において研修会を開催する時のポイント ・制度、社会保障、連携先などの違いについて
	10:15～10:35	20	各論2	平成30年度受講者活動報告	平成30年度訪問看護講師人材養成研修会からの学びを活かした研修会開催の実践報告から、自地域においての研修会開催に役立てることができる。	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会訪問看護ステーション管理者 黒田たまき氏	・平成30年度訪問看護講師人材養成研修会からの学び ・研修会の準備から開催までの実際について
	10:35～10:45	10		休 憩			
ロールプレイ	10:45～12:00	75	各論1	[テーマ]訪問看護の価値を伝える	訪問看護の価値を他者に伝えることができる	東京ひかりナースステーション 佐藤 直子氏	訪問看護の価値や魅力について気づきのロールプレイ ・訪問看護のメリット ・訪問看護ではどのようなことをするのか ・訪問看護が保障するもの ・事例を用いて言語化できるようにする
	12:00～13:00	60		昼 食			
講義	13:00～13:30	30	総論4	学習支援と教育	人材育成とは何か、教育対象の理解を深める方法を学び、自地域における訪問看護の人材育成に役立てることができる	日本赤十字看護大学准教授 西田 朋子氏	・人材の育成とは何か、人を教育することの基本的な考え方 ・教えるということの考え方について ・成人学習者に対する動機づけ ・能力の開発とGiO.SB0(組織目標、個人目標)について
GW	13:30～13:40	10		グループワークの進め方	効果的にグループワークを進行することができる	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 山田 雅子氏	[進め方] ①課題の抽出・共有 ②どの課題に取り組むか ③研修会の目標及び目的の設定 ④対象者を決める(受講対象者は、訪問看護師、訪問看護を目指す看護師) ⑤具体的な内容 ⑥講師の選定 ⑦自分が講師となったらどのような資料を準備するか
	13:40～15:10	90	各論3	[テーマ]自地域における訪問看護師の量的拡大及び質の向上のための研修プログラムの開発	《グループワーク》 地域における訪問看護師の量的拡大および質の向上の課題と今後の方策について「入門プログラム」を参考にして自地域に合ったプログラムや資料を実際に作成することができる	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 山田 雅子氏	・事前課題から抽出した自地域における課題を共有し課題解決の方策を考える ・抽出した地域における訪問看護師の量的拡大や質の向上の課題と今後の方策について「訪問看護入門プログラム」を参考にして自地域に合ったプログラムや資料を実際に作成する ・何を見せ、何を売り込めばよいのかロールプレイからの気づきや午前の講義の内容から考察する ・作成したプログラムをどのような場で活用できるかも検討する。 ・平成28年～30年度受講者の有志がファシリテーターをつとめる
発表及びフィードバック	15:10～16:10	60			《発表》 ・作成したプログラムや資料の特徴やセールスポイントについて根拠と共に発表する ・作成したプログラムの効果的な活用場について提案する 《フィードバック》 ・自地域の研修企画の参考にすることができる ・他者の意見に対して建設的な意見を述べる ・プログラム作成の根拠を理解することができる	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 山田 雅子氏	《発表》 ・作成したプログラムの紹介 ・プログラム作成に当たったの根拠 《フィードバック》 ・自地域の研修企画の参考にする ・他者の意見に対して建設的な意見を述べる ・プログラム作成の根拠を理解する ・質問は意図をもって行う
閉会	16:10～16:20	10		閉会の辞		一般社団法人全国訪問看護事業協会 副会長上野 桂子氏	閉会の辞 アンケート記入